

がん免疫療法の歴史と将来展望～珠玖洋先生を偲んで～

Part 2 「珠玖洋先生と歩んだがん免疫研究の歴史と将来展望」に参加させていただいて

宮原 慶裕（三重大学大学院医学系研究科 個別化がん免疫治療学）

今回、珠玖先生が永らく活動されてきました NPO 法人健康医療開発機構からの御依頼を頂き、Part2 である「珠玖洋先生と歩んだがん免疫研究の歴史と将来展望」のシンポジウムに参加させていただきました。私は「複合的がん免疫療法の開発～珠玖洋先生の VISION とその将来展望～」の演題で、これまで 20 数年間の珠玖先生との研究活動の中で触れることのできた、先生の素晴らしい知性、洞察力についての話を織り交ぜながら講演をさせていただきました。

私は幸運にも先生の研究室の大学院生としてがん免疫の研究活動を始めることができました。珠玖先生が丁度その 2 年ほど前に、がんワクチンの臨床応用を目指して長崎大学から三重大学に赴任された時期でした。当時、がんワクチン開発は主にペプチドワクチンであった時代でしたが、それ以前から独自のワクチンの送達方法を考え、更には蛋白ワクチン開発を実行されておられたのは今更ながらに驚くべきことと感じています。残念ながらその後単剤での効果は認められませんでした。実は今後必要となる、細胞治療、分子標的療法等の様々な治療法からなる「複合的がん免疫療法」において欠かせない治療法になる、との話をさせていただきました。また、後半には、今後のがん免疫療法では「腫瘍の不均一性」を打破する治療法開発が必要になることをお話しさせていただきました。その一つの選択肢として、腫瘍局所での抗腫瘍免疫応答の主な標的は変異した抗原であり、それら抗原群を同時に攻撃できる治療法を考える必要があることをお話しさせていただきました。

珠玖先生は生前、「現状ではいけない。真に高い有効性を示す治療を開発しなければならない。」と誰よりも真剣に考え、日本の第一人者としてトランスレーショナルリサーチに取り組まれてきました。そこに大変な苦労があったことは間違いないのですが、そのような素振りを全く見せずに私たちを精力的に引っ張ってきていただきました。その珠玖先生が健康医療開発機構での活動を常に大事にされたきた姿を思い出します。おそらく彼が目指す目標の実現のためには、企業、アカデミア、官公庁、そして患者様と手を携えて行動していかなければならない、と考えておられたと感じています。本 NPO の発展を願うと共に、非力ではありますが役立つことができるよう考えています。

昨年 9 月に急逝され、本当にかげがえのない方を亡くしたと改めて感じています。しかし、珠玖先生の、そして残された我々の希望である有効な治療法

開発実現に向けて、精一杯努力を重ねていきたいと考えております。本シンポジウムを企画、実行、そして御参加いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

全方位型がん免疫療法の開発研究

